

ツバキ科 ツバキ属

ヤブツバキ (藪椿)

Camellia japonica L.

自生環境

林縁、神社 など

原産地

日本在来

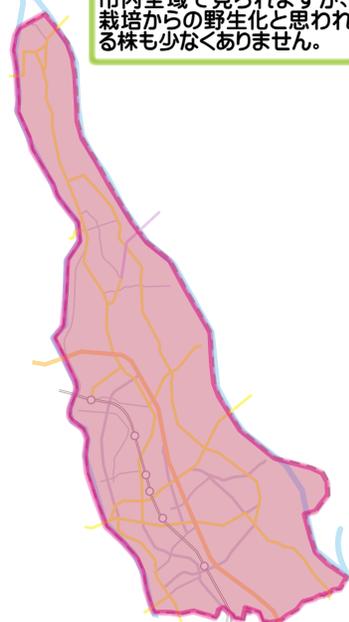
生育を脅かす要因



ヤブツバキの自生する山林環境は、開発などの影響を受けやすい傾向があります。また、ツバキの仲間は多種多様な園芸品種が栽培されるため、交雑の心配もあります。

市内の分布状況

市内全域で見られますが、栽培からの野生化と思われる株も少なくありません。



特徴

- ☆ 山林に自生する常緑樹で、海沿いで特に多く見られる傾向があります。花がキレイなため、庭や公園、神社などにもよく植えられています。樹高は放っておけば5 m 前後になりますが、剪定などで樹高を抑えることもできます。
- ☆ 11月～翌4月に開花しますが、厳冬期は花数が少なくなります。花は鳥媒花で、メジロやヒヨドリなどが吸蜜におとずれます。果実は球形で成熟すると3つに割れてタネを落とします。タネは硬い殻に包まれているが、中に良質の油が含まれており、椿油の原料となります。
- ☆ 葉は分厚く頑丈で、表面には強い光沢があります。潮風や大気汚染などに強い耐性があります。一方でチャドクガ(ドクガ科)の幼虫の食糧でもあります。チャドクガはしばしば大発生して葉を食いつくし、丸坊主にしてしまうこともあります。

カンツバキの正体は？

ツバキの仲間は、花がキレイなため庭や公園に植えられ、園芸品種もたくさんつくりだされています。中でも比較的ポピュラーで、市内でもよく見かけるのが「カンツバキ(寒椿)」です。これはヤブツバキとサザンカを交配してつくられた園芸種です。花や葉はやや小ぶりで、雄しべはヤブツバキのようにはっきりとした筒にはなりません。また花後は、花びらがはらはらと散ります。

葉は分厚くて光沢がある

雄しべは根もとがくっついて筒状になる

野生種の花はふつつ赤紫色

咲き終わった花はそのままのかたちでぱとっと落ちる

果実は球形。直径は2～3cmほど

熟すと開いて中のタネを落とす

タネの中には油がたっぷり

花は白色

品種

シロバナヤブツバキ

園芸品種 キンギョツバキ

金魚のようなかたちの葉

わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!
<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

